

第41回

医療研 *mail* ニュース *in* 東京 No.2

【発行】医療研組織委員会 事務局
2014年4月28日
TEL 03-3875-5871
FAX 03-3875-6270
Email:n-ask@irouren.or.jp

※当ニュースは、加盟単組・支部へ転送願います。

気になる!! 東京医療研の 魅力をご紹介★

東京医療研の魅力をご紹介するシリーズ 第1弾

今回は記念講演と特別報告の講師をご紹介します!!

1日目 6/14(土)

「民主主義の土台としての社会保障制度に向けてナショナルミニマムの構築」

～医療・介護・社会保障の充実を～ 講演する都留民子先生はこんな人!!

(県立広島大学教授)



県立広島大学・保健福祉学部教員。担当は、社会保障論。専門は日仏の失業・貧困と社会保障研究。

著書：『フランスの貧困と社会保護』（法律文化社）

『大量失業社会の労働と家族生活』（大月書店）など

訳書：『失業の社会学』『行動する失業者』（法律文化社）

都留先生は、「ズタズタにされ圧縮された社会保障は、さらに自由主義『改革』により、解体へと向かわされている。社会保障『改革』が、憲法9条の形骸化＝集团的自衛権・秘密保護法、そして憲法『改正』など軍国主義・戦争国家化と、軌を一にしていることは歴史的に見ても偶然ではない。国民の貧困化が進めば進むほど、ファシズム化（領土の拡張主義・他民族と自国民の抑圧）＝民主主義破壊は、支配層にとって容易になるから。子どもの学費が払えない・家賃が払えない・病気を抱えても過酷な労働によってしか生活の糧が得られない民衆は、自由や正義のために立ち上がれない。平和・民主主義を打ち立てるためには、全国民を対象に、住宅・医療・教育（子育て）・所得保障を包括した新しい社会保障・社会福祉制度の構築を求める運動が不可欠」と主張します。

「東京の地域医療の実態から」 講演する田村直先生はこんな人!!

(城南福祉医療協会大田病院院長)

大田病院・院長あいさつから（ホームページ抜粋）

念願だった新病院を2010年5月にオープンしました。

1949年創設以来地域の方々に支えられ、期待と信頼されていることを感じ身の引き締める思いです。この間、新しい病院の役割は何かと考えてきました。限られたスペースとマンパワーで私たちが担わなければならないことは何か。一つは「救急医療」です。東京都にはたくさんある病院があるにもかかわらず、色々な理由で救急車を断らざる



を得ない状況があります。大田病院では「断らない医療」を目指してこれからも積極的に救急医療に取り組んでいきます。

139床の一般病棟では内科、整形外科、外科を中心に治療します。急性期、手術、検査など幅広く見ていきたいと思えます。新しい役割の病棟として回復期リハビリテーション病棟を50床で始めました。病気の治療の後の社会復帰にむけたリハビリテーションを主に行う病棟です。今までにあまりおつきあいのなかった病院とも連携していくようになると思えます。新しい連携が私たちを育てていってくれるのではないかと思います。従来の法人内事業所との連携にとどまらず地域の医療機関や事業所との強力な医療・福祉・介護の連携をもち「いつでも、どこでも、誰でも安心して医療を受けられるために」という願いとともに安全な医療を迫及していききたいと思えます。

レポート大募集！！



医療研2日目には、各分野に分かれた分科会討論が開かれます。医療研究集会の魅力のひとつは、この分科会討論です。全国の経験を持ち寄り、テーマ別に「レポート」に基づく討論と交流を行ないます。ぜひ、レポート提出し、分科会討論にご参加ください。

レポートにつきましては、募集要項をご参照の上、書式・締め切り日を厳守して頂きますようお願い致します。レポート締め切りは**2014年5月12日（月）必着**です。

※詳しくは国民医療研究所ホームページ：<http://www.nhj.or.jp>

※当日持ち込みは、お受けできませんのでご了承ください。

第10分科会 「リハビリテーションの現場で求められるもの」 からのお知らせ

※参加予定の方は、下記についてお願いします。

- 発表（プレゼンテーション）には、動画は使えません。
- 発表用資料は、事前提出をお願いします。
- 職場の状況を数分で報告できるようにしてください。



★国民医療研究所ホームページに「第41回医療研ページ」がアップされました。日本医労連のホームページからもリンクがあります。今後とも当ニュースと合せてご利用をお願いします。次回は、食文化交流会をご紹介します。
